

田代よいとこーその10 田代は城下町だった!?

今の愛川中学校のあたりに、かつてお城がありました。田代城といいます。今回は田代城を巡るお話です。世が世なら、田代は小田原のような(?)“城下町”です。

田代城と領主

江戸時代に編纂された『新編相模国風土記稿』(天保12年=1841年完成、以下『風土記稿』)によると、「田代古城」として、小田原の北条氏の家臣・内藤下野守(しもつけのかみ)秀勝とその子三郎兵衛秀行の2代が領主となっています。内藤氏は田代のほか半原、角田、海底、箕輪、坂本、磯部等も所領としていました。秀行の時、永禄2年(1560)に武田氏に攻められ落城したとも、同12年の三増合戦(北条氏と武田氏の戦い)の折に攻め落とされたとも伝えられています。『風土記稿』ができた頃(今から約170年ほど前)には、そのあたりはすべて水田や陸田(畑)で、「城郭の遺形なし」という状況でしたが、町教育委員会が昭和55年に設置した説明板(愛中の入り口にあり)によると、城址には石塁址があり、「仕置き場」「うまや」といった地名が残っているとあります。また、他の資料によると、城の背後の山(富士居山)に狼煙(のろし)台を築き、敵の襲撃に備えたようです。

築城は、『日本城郭体系』(新人物往来社 1980年)によると弘治年間(1555~1558)となっています。ちなみにこの頃、武田信玄は30代半ば、織田信長は20代前半でした。

田代城と神社仏閣

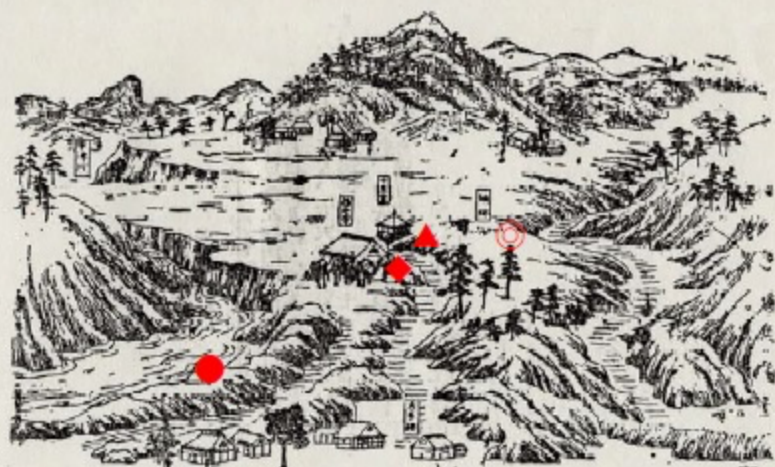
内藤氏は、中津神社を氏神として崇敬していました。また、愛川中学校本館の西側に大きなタブノキがあり、その脇を上り詰めたところに八幡社(はちまんさま)がありますが、これは角田村八幡社を本宮とする末社で、内藤氏が城を築くにあたり、角田村八幡社の分霊を勧請し、鬼門除けにしたという伝承があります。

勝楽寺(=半僧坊)も内藤氏にゆかりの深いお寺です。『風土記稿』によると、開基(寺を創建すること)は内藤秀行です。勝楽寺には内藤氏関連の墓が4基あり、うち2基は秀行夫婦のものと言われています。

秀行の没年は天正11年(1583)8月10日、妻の没年は天正14年2月21日です。これからすると、武田氏に攻められて落城したのが永禄2年(1560)として、没年が天正11年(1583)ですから、秀行は落城後23年間は存命だったこととなります。『風土記稿』には、永禄2年の落城後、秀行は「城を遁れて入道す」とあるので、仏門に入っていたのでしょうか。

ちなみに天正11年という年は、羽柴秀吉(豊臣秀吉)が賤ヶ岳の戦いで柴田勝家を破ると共に大坂城を築くなど、着々と天下統一に向かっていった年です。内藤秀行はどんな思いで世の趨勢を見つめていたのでしょうか。

田代古城



【参考文献】

- ★上記のほか『愛川町郷土誌』(愛川町 昭和57年)
- ★インターネット検索「田代城ー神奈川県愛甲郡愛川町 ~城と古戦場~」

←『新編相模国風土記稿』より
今から170年前の田代

- 田代城址
- ▲十王堂(廃堂 勝楽寺持)
- ◆富士居山西光寺(明治2年 廃寺)
- 中津川